

## 「関連付けて考える」子どもを育てるために(小学校)

### 「関連付けて考える」子どもの姿

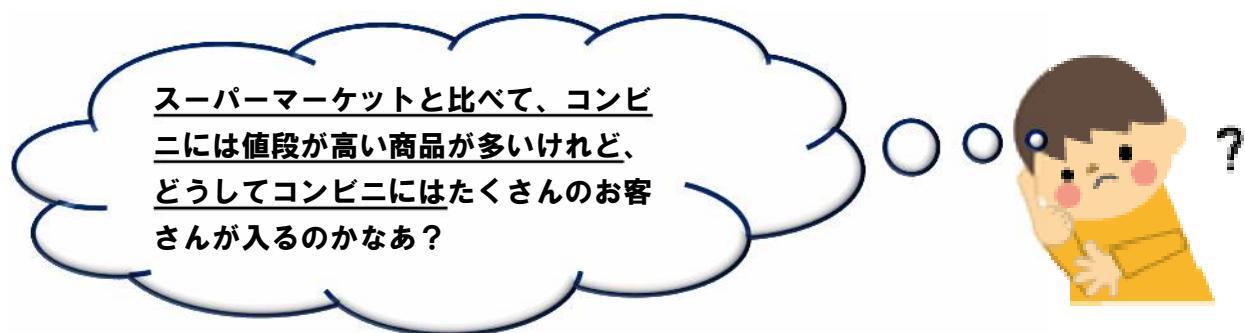
関連付けて考える子どもの姿は、小学校学習指導要領の目標に示されている「調べたことや考えたことを表現する」学びに表れます。

例えば、スーパーマーケットの学習で、商品を売るための工夫について学んだ小学3年生の子どもが、次のような発言をしたとします。



スーパーマーケットに買い物によく行くのは、特売セールなどがあり、安いからだと思います。だって、お母さんが、広告で値段を調べてから買い物に行くのをよく見かけるからです。

この子どもは、**生活経験を関連付けて**考えの根拠を述べています。



また、この子どもは、**他の事象と対比してとらえた事実を一般的な条件と関連付けて**考え、矛盾に気付いたことから問題を見いだしています。

このほかにも、関連付けて考える子どもの姿は、

- **複数の資料から読み取った事実を関連付けて**考え、それぞれのつながりに気付いたり、問題を見いだしたりする姿
- **既習内容を関連付けて**考え、課題に対して予想したり、学習の見通しを立てたりする姿
- **友達の考えを関連付けて**考え、自分の考えを吟味し、より確かなものにする姿

など、学習の様々な場面でとらえることができます。

# 「関連付けて考える」ための指導のポイント

上記のような子どもの姿を導くポイントとして、次の三つについて説明します。

## ポイント1 考えの根拠を大切にさせる

「何となくそう考えた」を認めない教師の姿勢が大切です。考えの根拠が述べられていないときは、発言を一度受け止めた上で「なるほど、ところでどうしてそう考えたの？」と問い合わせします。また、根拠がしっかり述べられた際には、その姿を称賛するとともに、発言を価値付けして全体に広めます。このような教師の働きかけにより、子ども同士が、「どうしてそう考えたの？」「だってね、…」などというように根拠を求め、根拠を大切にしながら話し合うようになります。このことが、『事実をもとに考える』という素地を養い、**ポイント2**の『事実を関連付けて考える』ことにつながります。

## ポイント2 資料から読み取った事実を関連付けて考えさせる

例えば、単元や一単位時間の導入において、教師が複数の資料を提示し、それぞれの資料から読み取れる事実を洗い出させます。そして、読み取ったそれぞれの事実を関連付けて、「考えられること」や「分からないこと」は何かを子どもたちに問います。ズレや矛盾が明らかとなって問題が生まれたり、共通点やつながりを見いだしたりすることができ、新たな発見が生まれます。

## ポイント3 複数の視点から考えさせる

例えば、課題や問題に対して、自分の考えをまとめたり、全体で話し合ったりする際に、次に示したような**複数の視点から考えさせるようにします。**

- 社会生活を営む人々の行為（工夫や努力、連携・協力等）
- 地理的環境     ○ 歴史的背景     ○ 自他の考え

複数の視点から考えさせることで、様々な事柄を関連付けながら、社会的事象の意味を複合的にとらえる力を育てることができます。



「関連付けて考える力」を育てるためには、教師が『意図的に』  
関連付けの場面をつくることが大切です！